

作成日 2016年 1月 25日
改訂日 2016年 10月 4日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 NU Mcure UV HS OP ニス シリーズ
会社名 都インキ株式会社
住所 大阪府大阪市鶴見区放出東 1-7-13
担当部門 技術課
担当者 中田 敦嗣
電話番号 06-6961-0101
FAX 番号 06-6961-0303
メールアドレス gijutu_nakata@miyakoink.co.jp
緊急連絡先 同上
整理番号 I-04HSOP-01

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性
健康有害性

皮膚腐食性・刺激性 区分 2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 区分 2 B
生殖毒性 区分 1

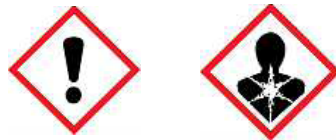
環境有害性

水生環境有害性（急性） 区分 3
水生環境有害性（慢性） 区分 3

上記で記載のないものは分類できない／分類対象外／区分外

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

皮膚刺激（H315）
眼刺激（H320）
生殖能または胎児への悪影響のおそれ（H360）
水生生物に有害（H402）
長期継続的影響により水生生物に有害（H412）

注意書き

安全対策

- 使用前に取扱説明書を入手すること。（P201）
- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。（P202）
- 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。（P260）
- 取り扱い後は良く手を洗うこと。（P264）
- 環境への放出を避けること。（P273）
- 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。（P280）

応急措置

- 特別な処置が必要である。（この MSDS の注意書きを見よ）（P321）
- 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。（P302+P352）
- 皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診断／手当てを受けること。（P333+P313）
- 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる

場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
 目の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。(P337+P313)
 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。(P308 +P313)
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること (P362+P364)

保管

施錠して保管すること。(P405)

廃棄

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託して廃棄すること。(P501)

3.組成、成分情報

単一製品・混合物の区分：混合物

一般名：紫外線硬化型インキ

成分及び含有量

化学名	該当するインキ	含有量 (%)	化学式	官報公示No. (化審法)	CAS No.
成分概略					
顔料	全てのインキ	10～20	—	—	—
感光性樹脂	全てのインキ	20～30	—	—	—
感光性モノマー	全てのインキ	40～50	—	—	—
光重合開始剤	全てのインキ	10～20	—	—	—

毒劇法の該当：非該当

4.応急措置

吸入した場合：直ちに患者を毛布等にくるんで安静にさせ新鮮な空気のある場所に移す。呼吸が困難な場合又は呼吸が停止している場合には直ちに人工呼吸を行ない、医師の手当てを受ける。
 皮膚に付着した場合：直ちに汚染された衣服や靴等脱がせ付着部又は接触部を石鹼水で洗浄し、多量の水を用いて洗い流す。もし皮膚に炎症を生じた場合には医師の手当てを受ける。
 目に入った場合：直ちに多量の水で15分間以上洗い流し、眼科医の手当てを受ける。
 飲み込んだ場合：吐き出させると気管支に入っかえって危険が増すので吐き出させてはいけない。直ちに医師の手当てを受ける。

5.火災時の措置

消火剤：粉末、泡、二酸化炭素、乾燥砂、霧状の強化液
 使ってならない消火剤：水
 特定の消火方法
 ・速やかに容器を安全な場所に移す。
 ・移動不可能な場合には容器及び周囲に散水して冷却する。
 ・指定の消火剤を用いて消火する。
 消火を行なう者の保護
 ・消火作業の際には必ず保護具を着用し、風下で作業しない。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項
 ・風下の人を退避させる。漏出した場所の周囲にはロープを張るなどして人の立ち入りを禁止する。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。
 ・作業の際には必ず保護具を着用し、風下で作業しない。
 ・屋内の場合には処理が終わるまで十分に換気を行なう。
 環境に対する注意事項
 ・濃厚な洗浄廃液が河川に排出しないように注意する。
 除去方法
 ・漏出した液は土砂等でその流れを止め、安全な場所に導き、密閉可能な空容器にできるだけ回収し、そのあとを多量の水を用いて洗い流す。その場合中性洗剤等の分散剤を用いて洗い流す。

7.取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱い注意事項

- ・取扱い場所は火気厳禁とし、作業場は換気を十分に行なう。吸い込んだり、眼、皮膚、及び衣類に触れないように適切な保護具を着用する。
- ・取扱いの都度容器を密閉する。蒸気の発散をできるだけ抑え、作業環境を管理濃度以下に保つように努める。

保管

適切な保管場所

- ・容器は密栓して換気良好な冷暗所に貯蔵する。ボイラー等熱源付近や可燃性物の付近には置かない。
- ・酸化性物質、有機過酸化物等と同一場所に置かない。
- ・指定数量以上の場合は火災予防条例に従う。

8.曝露防止措置

設備対策：屋内作業所での使用の場合は発生源の密閉化、または全体換気装置を設置する。

許容濃度

化学物質の名称	管理濃度	ACGIH (TWA) (2006 年度版)	日本産業衛生学会 (2006 年度版)

保護具：有機ガス用防毒マスク、保護眼鏡、耐油性保護手袋、保護衣、保護長靴等を使用する。

適切な衛生対策：マスク等の吸着剤の交換は定期的又は使用の都度行なう。

9.物理的及び化学的性質

物理的状态

- 形状：固体
- 色：顔料等が混合されているので特定できない。
- 臭い：僅かな特異臭
- pH：該当しない。

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

引火点：170℃（密閉式）

比重：1.0～1.4

溶解性：水に難溶、有機溶剤に可溶

成分の物理的および化学的性質

成分の名称	沸点℃	比重	水への溶解性	相対蒸気密度(空気=1)	引火点℃	発火温度℃	爆発限界 vol% (空气中)	Logpow(オクターブ/水分配係数)	出典

出典 1：ICSC CARD

出典 2：化学物質管理促進法 PRTR・MSDS 対象物質全データ

出典 3：Kis-Net

出典 4：原材料の MSDS

出典 5：化学物質総合情報提供システム (NITE)

*1：神奈川県環境研究所データベース

10.安定性及び反応性

安定性・反応性：常温以下では安定

避けるべき条件：加熱により容器が爆発する。

避けるべき材料：第一類、第六類の危険物及び高圧ガスとの接触は避ける。

危険有害な分解生成物：燃焼により CO、NOx 等有害ガスが発生する。

1 1. 有害性情報

製品としての有害性情報：製品としての情報なし

成分の有害性情報 (GHS 分類結果)

成分	急性毒性(経口) mg/kg	急性毒性(経皮) mg/kg	急性毒性(吸入： 気体)mg/kg	急性毒性 (吸入：蒸気)	急性毒性(吸入： 粉塵、ミスト)	皮膚腐食性・ 刺激性	眼に対する重篤 な損傷性/眼刺 激性
光開始剤	区分外	分類できない	区分外	分類できない	分類できない	区分2	区分2 B
感光性モノマー	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない

成分	呼吸器感作性	皮膚感作性	生殖細胞 変異原性	発がん性	生殖毒性	特定標的臓 器・全身毒性 (単回暴露)	特定標的臓 器・全身毒性 (反復暴露)	吸引性呼吸器 有害性
光開始剤	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	区分1	分類できない	分類できない	分類できない
感光性モノマー	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない

※ 印刷インキは IARC3

1 2. 環境影響情報

製品としての環境影響情報：製品としての試験結果はないが、組成からは下記に分類される。

水性環境有害性 (急性) 区分3

水性環境有害性 (慢性) 区分3

成分の環境影響情報 (GHS 分類結果)

成分	水生環境有害性 (急性)	水生環境有害性 (慢性)
光開始剤	区分2	区分2
感光性モノマー	分類できない	分類できない

1 3. 廃棄上の注意

- ・ドラム缶に入れ、横転しても内容物が外部へ流出しないように密栓する。
- ・焼却する場合は、産業廃棄物処理基準に従って焼却する。
- ・外部委託の場合は、廃油 (可燃性) であることを明記し、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。

1 4. 輸送上の注意

注意事項：・容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にする。容器を積み重ねる場合には高さ 3 m 以下とする。第一類、第六類の危険物及び高圧ガス (一部を除く) とは混載できない。
・消防法の危険等級Ⅲに準ずる運搬容器に収納して運搬する。

国連分類：国連分類の定義上、危険物に該当しない。

国連番号：非該当

指針番号：133

1 5. 適用法令

- ・労働安全衛生法 (通知対象物質)
- ・火災予防条例 (指定可燃物 可燃性固体類)
- ・道路交通法 (長大トンネル、水底トンネル、高速道路等での規制)
- ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律

1 6. その他の情報

参考資料

- 1) ACGIH (2006 年)
- 2) 日本産業衛生学会 (2006-2007 年) <http://joh.med.uoeh-u.ac.jp/oel/index.html>
- 3) ICSC CARD <http://www.nihs.go.jp/ICSC>
- 4) 神奈川県環境研究所データベース <http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp>
- 5) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 GHS 分類結果データベース

<http://www.safe.nite.go.jp/ghs/ghsi.html>

6) 原材料の MSDS

7) 製品安全データシート作成指針 改定 2 版 (日本化学工業協会) 2006 年 5 月発行

8) 製品安全データシート作成資料 改訂 3 版 JIS Z7250:2005 対応 (印刷インキ工業連合会)

9) IARC (vol.1~85)

問合せ先

担当部門 生産部 技術課

電話番号 06-6961-0101 FAX 番号 06-6961-0303

メールアドレス gijutu_nakata@miyakoink.co.jp

* 「安全データシート」の記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、法令の改正や、新しい知見により改訂されることがあります。
本製品を取扱う場合は、記載内容を参考にして、使用者の責任において実態に即した安全対策を講じて下さい。
本データシートは、安全や品質の保証書ではありません。